

世田谷・下北沢駅前再開発計画案

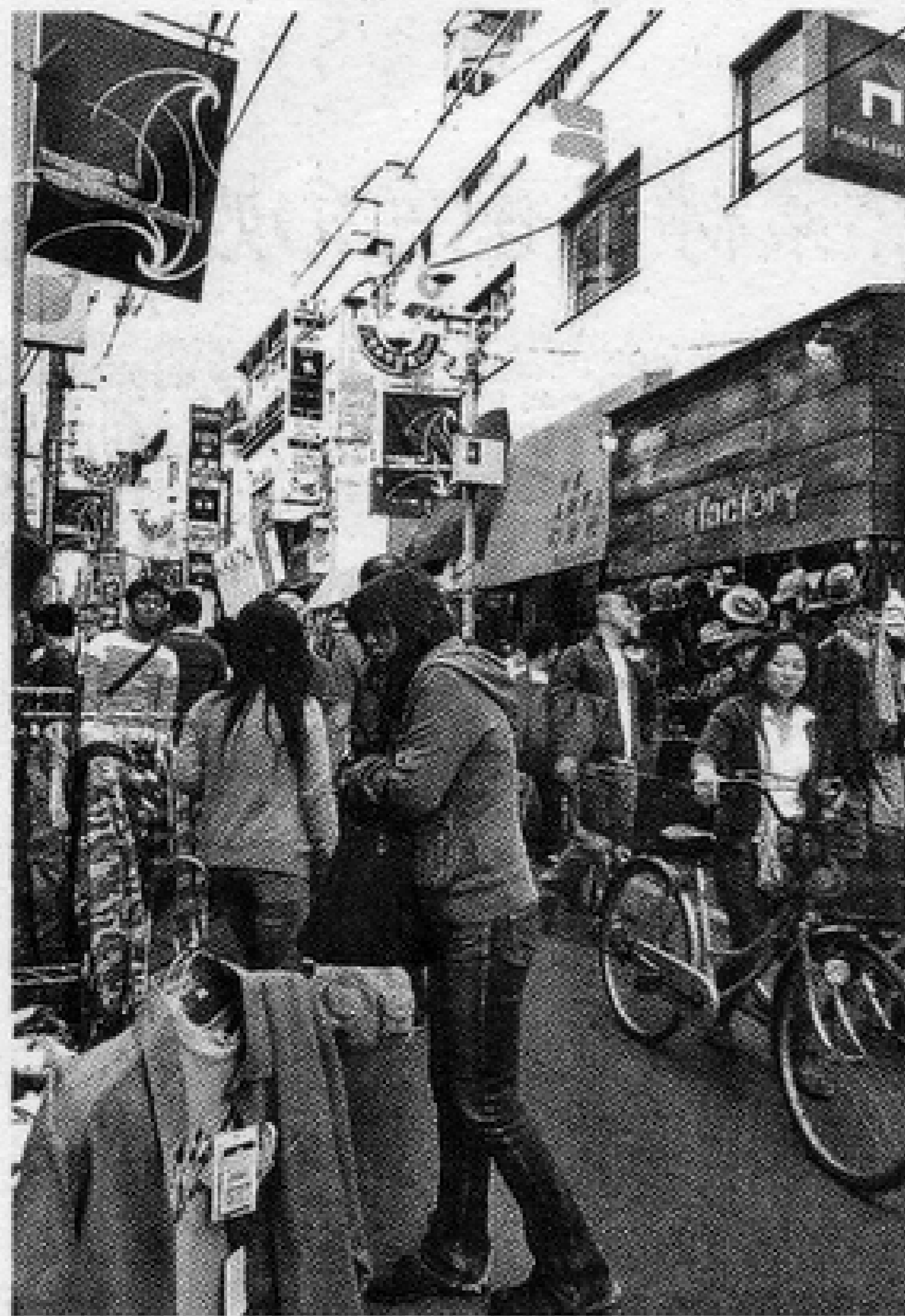
意見書フォーマット市民に配布

区職員 賛成を「誘導」

世田谷区の下北沢駅前再開発の計画案をめぐり、区職員が「私は計画案に賛成です」などと記した意見書フォーマットを一部市民に配っていたことが分かった。都市計画法に基づく計画案の縦覧を経て、市民らが区に提出する意見書は区都市計画審議会の検討材料になるため、反対派住民から「公務員の公正が問われる」と疑問の声が上がっている。【市川明代】

「公正問われる」と疑問の声

区によると、作成したのは意見書の下書きと書き方のメモなど。「下北沢をこんな街にしたい」として①安全・安心の街づくり②歩行者主体の街づくり③地域が一体となる街づくりの三つの文案を例示、賛成する旨を一つ記入し都市計画課に提出するまでの手順を示している。地域内の商店会や町会など9団体の役員に手渡したという。再計画を担当する区拠点整備第一課の辻裕光課長は「意見書の書き方が分からないので参考



大規模再開発が予定されている下北沢

になるものはないかと相談され、一例として作成した。問題があるとは思っていない」と説明している。

同地区は、演劇やファッションの発信地として古くから「シモキタ」として若者たちに親しまれており、再開発には「街の良さが失われる」との反対意見も根強い。反対

下北沢駅周辺再開発

下北沢駅前に最も大26号幅の都市計画道路「補助54号線」と駅前ロータリー約5300平方メートルを整備する再開発事業。都市計画決定以降、中断していたが、都の小田急線連続立体交差事業に伴い再浮上した。都市計画法に基づく計画案の縦覧・意見書提出期間は9月29日に終了し、意見書は参考資料として18日の区都市計画審議会に示される。同審議会は早ければ同日中にも答申をまとめる見通し。

派510店舗の商業者でつくる「54号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」の大木雄高代表は、「『反対』も併記したフォーマットならともかく、賛成を誘導する内容で、民意を公平に集める

立場の公務員のすべきことではない」と指摘している。大木さんらは17日午後、下北沢でサウンド・パレードによる反対デモ「下北INSIST!」を開く。